



ニュースレターくまもと

Vol.130
2022.Autumn

NEWS LETTER KUMAMOTO

■ 発行:一般財団法人熊本市国際交流振興事業団 〒860-0806 熊本市中央区花畑町4番18号(熊本市国際交流会館)
■ Publisher:Kumamoto International Foundation(KIF)TEL:096-359-2121 / FAX:096-359-5783
e-mail:pj-info@kumamoto-if.or.jp URL:https://www.kumamoto-if.or.jp

★CONTENTS★

P1 熊本市と海外の友好姉妹都市について

P4 元 CIR からの祝福メッセージ

P5 熊本・ハイデルベルク友好都市 30 周年

P7 世界を知る～アンゴラからこんにちは！～

P8 ちょっと日本語、賛助会員募集

熊本市と海外の友好姉妹都市について(続)

1. 熊本市と海外の友好姉妹都市関係にある都市一覧(続き)

前号(129号)では、中国桂林市、米国サンアントニオ市、独国ハイデルベルク市との交流の歴史をご紹介します。本号でも引き続き、米国ローム市、韓国蔚山広域市、仏国エクサンプロヴァンス市、中国蘇州市、台湾高雄市をご紹介します。

アメリカ・ジョージア州・ローム市

ローム市は、アメリカ南北戦争の激戦地としての史跡や先住民の居住地跡などが残り、アメリカの歴史が強く感じられる都市で人口は約3.7万人です。近代日本の夜明けを象徴する「西南の役」の激戦地「田原坂」を有する旧植木町とアメリカ合衆国における「南北戦争」の激戦地であるローム市が同じ歴史を共有することから、平成4年から青少年派遣などを通じて交流が始まりました。平成7年5月、植木町合併40周年記念に際し、相互理解と友情を深めるため友好関係を盟約するに至り、熊本市と植木町との合併(平成22年3月23日)に伴い、姉妹都市の関係が引き継がれました。

《ローム市のホームページ》 <https://www.romea.us/>

《最近の主な交流》

・令和元年(2019年)8月 熊本市の中学生訪問団を派遣



ローム市のシンボル時計台
クロックタワー

韓国・蔚山広域市

蔚山広域市は、ヒュンダイ自動車の主力工場や韓国最大の石油コンビナート「SKエナジー」等巨大企業が集積する一大産業都市です。かつて加藤清正公が監督し築いたといわれる倭城があることや、熊本市にも蔚山町という旧町名が残ることから、文化やスポーツ等、様々な分野で民間を中心とした交流が活発に行われてきました。平成19年には両市から相互訪問するなど両市間の交流が深まりました。平成22年4月に具体的な交流の成果が期待される分野として「文化、観光、スポーツ、環境」を中心とした交流を行っていくことで合意し友好協力都市協定が締結されました。



蔚山広域市の工業塔
(出典:蔚山写真 DB)

蔚山広域市は新石器時代の各種石器、櫛目文土器と青銅器時代前の遺跡である盤亀台岩刻画が発見された悠久の歴史を有する都市であり、朝鮮時代に蔚山という名前が誕生。1962年に市に昇格、1997年に現在の蔚山広域市に昇格しました。人口117万、面積は1,057km²(ソウルの1.7倍)、日本海に面しています。区域の郊外に位置する蔚州郡(ウルチュグン)は山岳地帯で、1,000m以上の高い山があり、一方では豊かな農業地帯や美しい海岸が続き、海水浴場も点在します。区の部分は産業都市、郡の部分は農業地帯が大部分を占める典型的な都市、農村の複合都市となっています。

《蔚山広域市のホームページ》 <https://www.ulsan.go.kr/u/japanese/main.ulsan> *日本語サイト有り

《最近の主な交流》

- ・平成31年(2019年)2月 第8回熊本城マラソンにおける選手団4名の受入
- ・令和2年(2020年)11月 友好都市締結10周年事業にかかる事前協議として両市市長によるオンライン会議を開催
- ・令和3年(2021年)10月 チョヨン文化祭にビデオメッセージ

フランス共和国・エクサンプロヴァンス市

エクサンプロヴァンス市は、人口の2割以上を学生が占める学園都市、また、ローマ時代からの「水の都」で15世紀から繁栄した古都であり、17～18世紀の建物と街並みが残る歴史文化都市、観光都市です。1992年、熊本市在住の能楽師、狩野琇鵬(かの しゅうほう)氏がエクサンプロヴァンス市に総檜の能舞台を寄贈したことを契機として民間、行政双方のレベルで交流が行われてきました。平成24年

熊本市友好代表団の欧州派遣に伴い、交流都市締結に向けた「意向書」を取り交わし、更に平成25年2月、エクサンプロヴァンス市から代表団が来熊し、2月16日「交流都市」協定の調印を行いました。現在、文化、芸術交流のほか、観光、経済、教育、調査研究、都市活性化、都市行政など具体的な成果が期待される各分野での様々な交流が行われています。



エクサンプロヴァンス市庁舎前の広場

フランス南部(プロヴァンス=アルプ=コート・ダジュール州ブーシュ=デュ=ローヌ県)に位置し、パリの南750km、地中海に面したマルセイユの北30kmに位置しています。ローマ時代に建設され、15世紀にプロヴァンス伯爵領の首都として繁栄した古都で、17～18世紀の歴史的な街並みをそのまま生かした美しい街です。人口約15万人のうち約4万人が学生という学園都市でもあり、ローマ時代から「水の都」と呼ばれ、街中の至るところに大小の噴水が点在しています。画家ポール・セザンヌゆかりの地を巡る観光ルートが有名で、毎年夏に世界屈指の3大オペラ祭といわれるエクサンプロヴァンス国際音楽祭が開かれます。

《エクサンプロヴァンス市のホームページ》 <https://www.aixenprovence.fr/>

《最近の主な交流》

- ・令和元年(2019年)5月 エクサンプロヴァンス市(エクス市)へ熊本市訪問団を派遣(平成30年10月に続き相互交流事業:国際、経済、観光、文化、教育、庭園整備)
- ・令和元年(2019年)12月 エクサンプロヴァンス国際クリスマスマルシェにおいて熊本市PRを実施
- ・令和2年(2020年)1月 第1回全国都市緑化フェア実行委員会へのエクサンプロヴァンス市職員2名の受入
- ・令和4年(2022年)4月 全国都市緑化フェア・エクサンプロヴァンスウィークにおいて、エクス市訪問団4名を受入

中国・蘇州高新区

蘇州高新区は、日本企業約 500 社を含む 2,000 社に上る外資系企業や、8,000 社近くの国内企業が進出し、自然、文化とハイテク産業を融合した街づくりを目指す中国屈指のハイテク産業集積地です。熊本市では、中国をはじめとする東アジア地域での知名度アップのため、平成24年、県・市・熊本大学の三者共同で上海事務所を開設し、積極的にプロモーションを展開。このような取り組みが実を結び平成25年5月22日、蘇州高新区との交流が発展し、交流都市協定の締結に至りました。高新区に立地する企業が本市へ訪れるインセンティブツアー（社員の報償旅行や研修旅行）の誘致や学校交流など、観光及び教育の分野を中心に交流が進められています。

中国江蘇州東南部に位置し、上海から新幹線で約30分、面積は258km²で熊本市のおよそ5分の3程度。人口は75万人で、約6,000人の日本人が居住しています。

《蘇州高新区のホームページ》 <http://www.snd.gov.cn/>

《最近の主な交流》

・令和元年(2019年)12月 蘇州市高新区訪問団6名の受入



蘇州市 虎丘の斜塔(雲岩寺塔)

台湾・高雄市

高雄市は、西に台湾海峡、南にバジー海峡を臨み、アジア第3位のコンテナ港「高雄港」を有する台湾南部の最大都市です。台湾交流は、平成24年4月の高雄市副市長の熊本市訪問以来、様々な協議を行ってきました。また、熊本県においても「阿蘇くまもと空港」と「高雄国際空港」間の定期便就航を目指し、観光客の誘致・農産物のPRなど県市協力して交流を行うことで平成25年に熊本県、熊本市、高雄市の3者によるMOU(国際交流促進覚書)を締結。その後、高雄での観光PR、物産商談会、相互のマラソン大会への参加等のほか、平成27年10月には定期便就航が始まり、MOUの期間満了に伴い、平成29年1月11日高雄市で熊本県、熊本市、高雄市友好交流協定を締結。今後、経済、観光、教育、スポーツ、文化等の成果が期待できる各分野での交流を促進していくこととなりました。

台湾の南部に位置する高雄市は、亜熱帯性気候に恵まれる台湾第3の大都市(面積 2,952km²、人口 278 万人)です。西に台湾海峡、南にバジー海峡に面した近代的な大都市は、豊かな文化と美しい都会の景観も擁する一方、市周辺には重工業地帯が広がっています。市内にある壽山(山)と愛河(川)は市民の憩いの場となっており、郊外には優美な澄清湖、夕景の名勝・西仔湾、コンテナ船が群がる高雄港は有名な観光地であります。

《高雄市のホームページ》 <https://www.kcg.gov.tw/Default.aspx>

《最近の主な交流》

・平成31年(2019年)2月 高雄国際マラソン熊本市訪問団6名の派遣、マラソン友好交流覚書の締結

高雄ランタンフェスティバルへ熊本市訪問団2名の派遣

第8回熊本城マラソンに市民ランナー3名の受入

・令和2年(2020年)2月 第9回熊本城マラソンに高雄市訪問団4名の受入



前号に続き、熊本市の国際交流員としてご活躍いただいたアメリカのキャッシー・ラヴァさんからメッセージをいただきましたので現在の様子も含めご紹介いたします。

(キャッシー・ラヴァさん) 2003年～2006年

こんにちは！私は1999年から2000年、熊本学園大学で学んだあと、2003年から2006年に亘り、熊本市の国際交流員として熊本で働く機会を得ました。熊本に住んでいたときは、いつもワクワクして一日の始まりを迎えていたことを懐かしく思い出します。今でも熊本のことを2番目の地元だと思っています。地元の米国モンタナ州に戻った当初は、1年、長くて2年だけのつもりでしたが、様々な事情により12年が過ぎてしまいました。早く3人の娘と主人たちに熊本の素晴らしい所をたくさん見せたくて仕方ありません！

今は香港に住んでいるので、近いうちにその機会が来る

ことを期待しています。熊本で出会った素晴らしい友人たちや思い出、そしてあらゆる世代の人たちと関わる機会を通じ学んだおかげで、熊本は私にとって永遠に幸せな場所(のひとつ)であり続けることでしょう。仕事の前に四季折々の美しさを見せる熊本城の周りをジョギングしたこと、熊本のビーチ、山々、小さな村、温泉、市場などを探検したこと、お寿司屋さんを見つけたり、仕事の後にお祭りに出かけたり…今でもそのころのことを、とても素晴らしい日々だったと思いつ返しています。ありがとう熊本！



右がキャッシーさん、左は前号で紹介した元ドイツ CIR のエスターさん



CIR 当時の友人との記念写



現在の様子(ご家族との写真)



お子様たち

「熊本・ハイデルベルク友好都市 30周年」

熊本日独協会 60年の歴史とともに

熊本日独協会は1962年11月16日創立。

今年60周年を祝います。また熊本市とハイデルベルク市が正式な友好都市となって30年。この記念の年にニュースレターへの投稿の機会を得たので「協会と友好都市の歴史・交流の様子」をまとめてみたいと思います。

◆ 友好都市への道のり

草創期の熊本日独協会には旧五高で青春を送り大学とロマンのまちハイデルベルクへの憧れを抱く会員が多くいた。1963年には本田弘人熊大学長(初代会長)が訪独の際に石坂繁熊本市長(2代目会長)の姉妹都市提携を望む親書をハイデルベルク市長に伝達。64年石坂市長は現地で希望を公式に伝え、以後も会員が訪独の度に親書を携行。81年星子敏雄市長(4代目会長)は鹿子木敏範理事(後に5代目会長)とハイデルベルク市長を訪問、86年2月大学六百年を祝う「日本週間」では桜の苗木200本を贈り公会堂の前庭にラインホルト・ツンデル市長と植樹した。

84年大久保圭一郎氏(97年6代目会長)を団長とするロータリー財団奨学生5名がハイデルベルクで市長表敬のほか多くのロータリアンと交流。親身になってお世話されたクリストフ・ケンプ博士(元京都ドイツ文化センター館長)が後にハイデルベルク・熊本友の会の初代会長に、また訪問団員の一人で協会に加入して間もない重浦陸治会員がそれから30年後に10代目の熊本日独協会会長となるなど世代を超えた人と人との絆が生まれる端緒となった。



ハイデルベルクでの
星子市長らの植樹

◆ 念願かなって友好都市に

90年6月熊本市が「水資源国際会議」を開催。ハイデルベルクからも専門家と共に市議会各派代表が参加。ライン・ネッカー新聞も好印象を伝えた。同年12月環境を重視するペアーテ・ヴェーバー氏が市長に就任。市民の間でも熊本の熱意を後押ししようと91年10月「ハイデルベルク・熊本友の会」が発足。12月ヴェーバー市長が市議会の賛同を経て「友好都市提案」の書簡を田尻靖幹熊本市長に送るに至った。こうして熊本の長年の努力が実り1992年5月19日ハイデルベルク市庁舎大広間で両市長が環境と世界平和に対する共通の認識を謳った「友好都市盟約」に調印。

本年5月19日の国際交流会館でのドイツカフェはハイデルベルク大学で学んだアンナ・ザイツ熊本市国際交流員による「友好都市締結30周年記念」の特別講座となった。



ドイツカフェでの記念写真

◆ 豊かな市民交流

友好都市が締結された1992年は熊本日独協会創立30周年と重なり11月ケンプ博士(ハイデルベルク・熊本友の会会長)に「日独文化交流の思い出」と題してご講演いただく。12月には鹿子木会長を団長とする訪問団を派遣し会員によるコンサートや交歓会で親善を深めた。このような訪問は友好都市締結20周年の2012年(団長:窪田隆穂9代目会長)、同25周年の2017年(団長:八戸和男11代目会長)にもハイデルベルガーヘルプスト(秋祭り)に合わせて実施しハイデルベル



ルク・熊本友の会とともに日本文化の紹介やおてもやんサンパの踊りで市民と触れ合った。

またハイデルベルク・熊本友の会の来訪の際には熊本市国際交流振興事業団と協力し茶道や着付けを楽しんでもらっている。



熊本市国際交流会館前のハイデルベルク訪問団

さらには困ったときこそその友人でもある。熊本地震の直後にはハイデルベルク・熊本友の会のハンス・ホーボルト会長(6代目)ご夫妻が見舞いに駆け付けた。昨年1月ドイツのロータリークラブが「国際ポリオ撲滅チャリティーオンライン囲碁大会」を開催した際にはホーボルト会長からの協力依頼を受け熊本・大分地区のロータリークラブに広報するとともに八戸現会長も自らゲームに参加し寄付を行った。

また市民レベルの交流だけでなく両市間で実施される青少年、スポーツ、医学等の分野での交流事業にも協力を惜しまな

い。「ハイデルベルクサマーサイエンススクール」参加の熊本の学生は毎夏ホーボルト会長の自宅で開かれるガーデンパーティーに招かれ思い出に残る一時を過ごしている。

今年6月30日には友好都市締結30周年を記念して熊本市から贈られた桜の苗木をエックハルト・ヴェルツナー市長が熊本友の会のホーボルト会長らとともに記念植樹。両市の紋章が入ったプレートも立てられた。

36年前に友好都市を夢見て植えられた古木とともに新しい桜もさらに30年後には友情の花を咲かせることでしょう。

(文:顧問 重瀬瑛台)



ハイデルベルク市長らによる桜の記念植樹

【参考】

- ・1991年10月7日 ハイデルベルク・熊本友の会発足
- ・1995年10月19日 熊本・ハイデルベルク友の会発足
- ・協会ブログ:<https://blog.goo.ne.jp/jdg-kumamoto>
- ・友の会ホームページ:<https://www.hd-kumamoto.de>



世界を知る

本項では「世界を知る」をテーマに JICA(独立行政法人国際協力機構) デスク熊本や、国際交流・国際協力分野で活躍している方、海外で生活している方々の協力を得て、日本で生活する私たちが日ごろ知ることが出来ない世界の興味深い状況をご紹介します

「アンゴラからこんにちは！」

駒井 佑子氏 (元熊本市国際交流振興事業団スタッフ)

アフリカ南西部に位置するアンゴラ。東京オリンピックの際にはアンゴラ女子ハンドボールチームが玉名市に来ていたことで国名を聞いたことがある方もいらっしゃると思います。しかし、ネット上でも基本的な情報以外はあまりなく、現地の生活については調べても分からないことも多いです。今回は 2021 年 12 月からアンゴラの首都であるルアンダに住み始め、実際に生活してみて見えてきたことを紹介したいと思います。



皆さんはアフリカというところのような生活をイメージしますか？1年中暑く、野生動物も数多く生息する大自然で、みんな民族衣装を着ていて…とイメージする方もいると思います。ですが、舗装された道路や高層ビル、おしゃれなレストランやカフェもあり、私のルアンダの第 1 印象は「都会」でした。乾季は長袖が必要なほど涼しく、街中は民族衣装の人もいれば、スーツの人もデニムとTシャツ等日本と同じ様な服装の人も多いです。そんな都会的な面がある一方、道路にはあちこちに穴があったり、建設中のビルが何年もそのまま放置されていたり、道を一本入ると路上で生活している人もいて、貧富の差も大きいです。アンゴラでアジア人は珍しく、歩いていると目立つため、お金を求める人たちが寄ってくることもあります。

また、アフリカは日本と比べて何でも安いというイメージがあるかもしれませんが、しかし、アンゴラは最近まで内戦をしていたこともあり、生活用品や食料はほぼ輸入に頼っています。そのため、ルアンダである程度安全を確保して食事や買

い物をするとなると、日本と同じくらいか少し高めめの価格の印象です。



コロナに関しては、私が渡航してきた時はマスクを着けている人が殆どで、ショッピングセンターに入る時にはワクチン接種証明書を見せる必要もありました。今でも渡航 72 時間前の陰性証明書と空港到着時の検査、公共施設など特定の場所でのマスク着用義務はありますが、普段はマスクをしない人が多いです。レストランやお店の人もマスクを着けていない人が増えてきており、だいぶコロナの規制が緩くなったことを感じます。

アンゴラでの生活では、外出の際は安全を考慮して車で移動するので、近所であっても一人でふらふらと散歩する事はありません。そのため、日本のように時間も場所も自由に移動できないことにストレスを感じることもあります。そのような環境の中でも、アフリカの布でワンピースを作ってみたり、フンジ(トウモロコシやキャッサバの粉を練ったものを鶏肉のシチュー風のものと一緒に食べる料理)をレストランで食べてみたり、私と同じく家族でアンゴラに来ている方とカフェ巡りをしたり…。

アンゴラはアフリカでは珍しくポルトガル語が公用語なのですが、語学学校でポルトガル語(ブラジルのポルトガル語とは少し違いがあります)を勉強し始めたりするなど、出来る範囲でアンゴラを楽しんでいます。

まだまだ紹介しきれない事もありますが、遠いアフリカの関係ない国と思わず、少しでも興味を持ってもらえると嬉しいです。

ちょっと日本語

年末年始の異文化

NPO 法人日本語サポートあさ
小川ひろみ

あつという間に今年もそろそろ終わりです。そして、年末年始を迎えるこの時期の日本語の教室は、日本語を異文化体験で過ごす時期でもあります。

まず、年賀状書き。今年は寅年、来年は兎年。干支は中国はじめ韓国、ベトナム、タイ等にもあるようですが、なんとベトナムとタイでは来年兎年は猫年だそうです。さらにクリスマスカードはクリスマス前に届くことが必須のように猫の絵柄の年賀状も年内に投函し年内に相手に届くべきものですから、これをもらった日本人は驚くでしょう。そして彼らの年末は「あけましておめでとうございます」で締めくくります。たしかに「HAPPY HEW YEAR」は新年を迎えるための年末の挨拶ですから気持ちはわかります。

問題は掃除。世界のほとんどの国の会社や学校の掃除は掃除業者の仕事のようです。それで特に大掃除となると学生たちは戸惑ったり怒ったりですから、大掃除前には事前説明と説得で当日は先生も社長も、みんなで教室や廊下、トイレも大掃除して、やれやれです。今年ももうすぐ、年末。皆様、よいお年を！

☆☆ 2022 年度賛助会員募集！ ☆☆

当事業団では賛助会員を募集しています。私どもの活動にご理解とご支援をいただくとともに、更なる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。会員の方々には事業団の機関紙「ニュースレターくまもと」の送付や様々な情報の提供をさせていただきます。ご協力いただける方はお手数ですが下記連絡先までお問合せいただきますようお願い申し上げます。

《個人会員》 一口 2,000 円 《団体会員》 一口 10,000 円

私たちは熊本市の国際交流活動を応援しています *令和4年11月10日までにご加入いただいた団体会員の皆さま(敬称略)

熊本日独協会、国立大学法人熊本大学

◇◇事業団 SNS のご紹介◇◇

事業団SNSのご紹介 ~事業団が使っている SNS をご紹介します！是非アクセスしてみてくださいネ！~

Instagram		Facebook			Twitter	Youtube	相談プラザ
							
メイン	外国人向け	メイン	外国人向け	相談プラザ			



《お問合せ・連絡先》

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

熊本市中央区花畑町 4 番 18 号(熊本市国際交流会館)

(休館日)第 2・第 4 月曜日、年末年始(12 月 29 日~1 月 3 日)

(TEL)096-359-2121 (FAX)096-359-5783

E-Mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp

URL: <https://www.kumamoto-if.or.jp>